

管内で発生した鶏脳脊髄炎とアメリカ腐蛆病

今年度、管内で発生した疾病について紹介します。鶏脳脊髄炎は名前のおり鶏で発生しましたが、治療法がないことから発生農場に多大な被害をもたらしました。アメリカ腐蛆病は蜜蜂の疾病で、家畜伝染病予防法で法定伝染病に指定されています。日頃の飼養管理を再確認し、発生予防に努めましょう。

鶏脳脊髄炎（AE）

今回、何十年かぶりに管内の養鶏場でAEの発生が確認されました。一般的に、同症はウイルス感染により引き起こされる疾病で、採卵鶏や種鶏の産卵率の低下と幼雛の神経症状が特徴です。通常はワクチン接種により予防可能で、産卵開始前の鶏に免疫を持たせることが重要です。雛は、親からの移行抗体により予防されます。

発生した鶏舎にはウイルスが濃厚に存在していると考えられることから、鶏舎内や器具類の十分な洗浄・消毒が必要ですが、一般的な消毒薬の中には効果のないものもあります。御不明な場合は、当所に御相談ください。

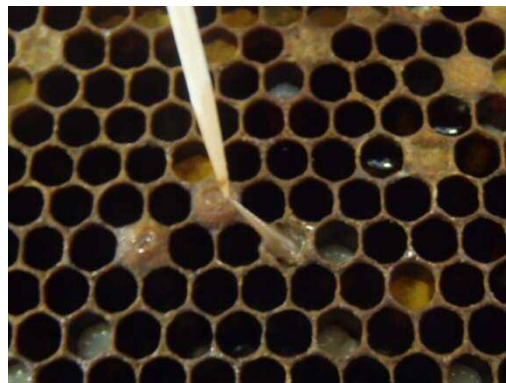
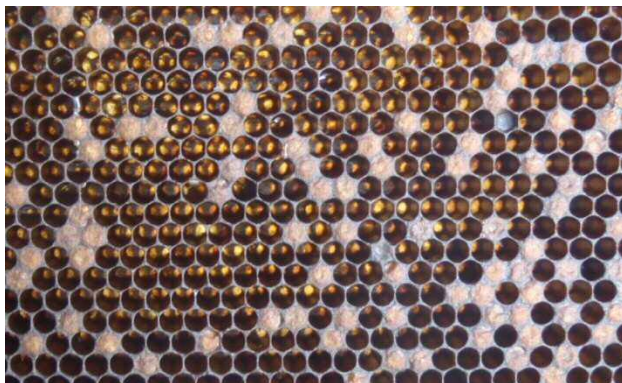
アメリカ腐蛆病

当所では、巣枠式巣箱で蜜蜂を飼育される方を対象に、年1回腐蛆病の検査を実施しています。この定期検査により、アメリカ腐蛆病が確認されました。発生群は、家畜伝染病予防法に基づき巣箱ごと速やかに焼却処分されました。また、同一蜂場で飼育される残りの群についても、再検査を実施します。

アメリカ腐蛆病の病原体は、芽胞を形成する細菌で、悪条件下で芽胞を形成することにより生き残り、環境中に長く存在します。芽胞が幼虫に経口感染すると幼虫は死亡しますが、症状は、有蓋巣房の中の死亡蜂児がチョコレート色に溶けたようになり、粘稠性を伴うことが特徴です。このような巣房では、蓋のへこみや小孔がよく見られます。

発生すると、巣箱だけでなく、土壌や器具類も芽胞で汚染されることから、十分な火炎消毒または芽胞に効果のある消毒薬の使用が必要です。靴底消毒も実施してください。

予防には、抗生物質製剤である「ミツバチ用アピテン」があります。



腐蛆病が発生した巣脾（愛知県西部家畜保健衛生所尾張支所提供）

左：産卵圏が不規則で、蓋のへこんだ巣房が散見される

右：有蓋巣房の死亡蜂児は粘稠性を帯び、爪楊枝の先に付着して糸をひくようになる